

# 長文読解練習 1

## 「似顔絵」

### ■ ポイント

- (1) 段落ごとに何について書いてあるかみる。
- (2) 指示語、代名詞が何を指しているのかをみる。
- (3) それぞれの『違い』と『共通点』をみる。  
(対比・逆接の接続詞)

### ■ 本文新出語

名詞	<sup>ようちえん</sup> 幼稚園 <sup>ひげ</sup> ひげ <sup>とくちょう</sup> 特徴 <sup>に おえ</sup> 似顔絵 <sup>タイプ</sup> タイプ <sup>ほんにん</sup> 本人 <sup>バナナ</sup> バナナ <sup>タイヤ</sup> タイヤ <sup>ハンバーガー</sup> ハンバーガー <sup>はんじん</sup> 犯人 <sup>しみん</sup> 市民 <sup>じょうほう</sup> 情報 <sup>その辺</sup> その辺 [「ところ、点」の意味]
な形容詞	<sup>せいかく</sup> 正確
形容詞	<sup>あや</sup> 怪しい
名詞／動詞Ⅲ	<sup>ひょうげん</sup> 表現(する) <sup>きょうちょう</sup> 強調(する) <sup>きょうつう</sup> 共通(する) <sup>あじつ</sup> 味付け(する) <sup>かつやく</sup> 活躍(する)
動詞	<sup>は</sup> 生えるⅡ <sup>くつつくⅠ</sup> くつつくⅠ <sup>つか</sup> 捕まえるⅡ [基本動詞の用法] ・(絵を)かく (～形を)する
副詞	<sup>じっさい</sup> しっかり <sup>じっさい</sup> 実際(に)は 実際(に)
その他	<sup>ばい</sup> ～倍 <sup>かれ</sup> (彼)ら (→ L7本文「これら」)



## 長文読解練習1

## &lt;本文を読む前に&gt;

文章には5つの段落があります。それを確認してください。

## &lt;練習A&gt; 本文を1回さっと読んで、次の作業をしてください。

- (1) それぞれの段落でどんな人が紹介されているか確認して、その名前を書いてください。

第1段落 \_\_\_\_\_

第2段落 \_\_\_\_\_

第3段落 \_\_\_\_\_

第4段落 \_\_\_\_\_

第5段落 \_\_\_\_\_

- (2) 重要な文だと思うところをチェックしてください。

- ・その人がどんな人か簡単にまとめられている文。
- ・その人がほかの人とどのように違うか、同じかまとめられている文。



## &lt;本文&gt;

幼稚園の子どもが自分のお父さんやお母さんの顔をかくとなかなかおもしろい絵ができます。お父さんのひげが口の中に生えていたり、お母さんの口が耳とくっついていたりします。もちろん、実際にはそんな顔ではないのですが、子どもから見ると、そう見えるのです。でも、特徴をしっかりと表現しているという点では素晴らしいと言えます。

プロの似顔絵をかく人には2つのタイプがあります。1つのタイプはまるで写真のように正確に、本人とそっくりにかく人で、もう1つのタイプはその人の特徴を強調してかく人です。2つ目のタイプの人がかく似顔絵は鼻が普通の3倍もあつたり、あごがまるでバナナのように長く曲がっていたり、耳が象のように大きかったりするのですが、それを見ると、「ああ、あの人だ」とすぐに分かります。そんな鼻やあごの形をし



## 長文読解練習1

た人なんて実際にはいないのに、それを見てだれの顔か分かるところが 12  
おもしろいです。幼稚園の子どもがかく絵はこのタイプと似ているので 13  
はないでしょうか。違いは、まずプロはかく技術が高いということです。 14  
これはどのタイプのプロにも共通していることです。次に、このタイプ 15  
のプロの絵は子どものそれと違って、いろいろと「味付け」がされてい 16  
る点です。料理の味付けが人によっていろいろあるように、似顔絵の味 17  
付けもいろいろです。人によっては、顔がタイヤになったり、口がハン 18  
バーガーになったりします。 19

実は、似顔絵をかくプロにはもう1つのタイプがあります。このタイ 20  
プはできるだけそっくりにかくという点では1つ目のタイプと似ていま 21  
すが、実際に本人を見ながらかくのではなくて、聞きながらかく人です。 22  
このプロが活躍するのは、警察が逃げていた犯人を捕まえる時です。犯 23  
人を見た人からその特徴を聞きながら似顔絵をかいて、それを使って市 24  
民から情報を集めます。 25

しかし、最近は何でもコンピューターを使って仕事をするようになり 26  
ましたから、このタイプのプロの仕事が少なくなったのではないかと思っ 27  
ていました。ところが、警察の話によると、正確なら正確なほどいいと 28  
いうことではないらしいのです。ある事件でコンピューターを使って正 29  
確な似顔絵をかいたのですが、市民からほとんど情報が集まらなかった 30  
そうです。正確ではっきりかかれすぎていたので、それと似ている人の 31  
情報が少なくなったということです。なんとなく怪しいと思っても、そ 32  
の人とは違うと考えるしまうようです。 33

どれくらい正確にかけばいいのか。どの程度特徴をはっきりかけばい 34  
いのか。その辺をよく考えてかくのが3つ目のタイプのプロの仕事なの 35  
です。それで、そのあとすぐに彼らがかいた似顔絵もいっしょに使われ 36  
ることになりました。 37

## 長文読解練習1

<練習B> もう一度ゆっくり読んで、 次の質問に教えてください。

(1) 下線部の指示語<sup>しじご</sup>と代名詞<sup>だいめいし</sup>は何を指していますか。

<第2段落から>

1. その人の特徴を～：
2. それを見ると～：
3. ああ、あの人だ～：
4. 子どものそれと違って～：

<第3段落から>

5. このプロが活躍～：
6. その特徴を聞き～：
7. それを使って～：

<第4段落から>

8. このタイプのプロ～：
9. それと似ている人～：
10. その人とは違う～：

<第5段落から>

11. その辺をよく～：
12. そのあとすぐに～：
13. 彼らがかいた～：



## 長文読解練習 1

(2) 本文で紹介されている似顔絵をかく人について、それぞれ共通する点、違う点をまとめてください。

1. 「幼稚園の子ども」と「プロ(全部)」

＜違う点＞ 子どもは  
プロは

2. 「幼稚園の子ども」と「プロのタイプ1」

＜違う点＞ 子どもは  
タイプ1は

3. 「プロのタイプ1」と「プロのタイプ2」

＜違う点＞ タイプ1は  
タイプ2は

4. 「幼稚園の子ども」と「プロのタイプ2」

＜共通点＞ どちらも  
＜違う点＞ 子どもは  
タイプ2は

5. 「プロのタイプ1」と「プロのタイプ3」

＜共通点＞ どちらも  
＜違う点＞ タイプ1は  
タイプ3は

(3) 「味付け」というのはどういう意味ですか。

元々の意味：

本文での意味：

(4) 3つ目のタイプのプロの仕事はこれから少なくなると思いますか。なぜですか。

長文読解練習1

＜読解のスキル＞

(1) 段落ごとの内容をとらえる。

- ・「1つ(目)、2つ(目)・・・」
- ・「第1に、第2に、・・・」
- ・「まず、次に、・・・」

(2) 対比されている部分を正確によむ。

- ・「～という点では(同じ、似ている、違う)」
- ・「～と似ている」「～と違う」「違いは～」
- ・「～が共通している」
- ・「Aが～ように、Bも～」

(3) 話の展開に注意して読む。

- ・(筆者は)～と思っていた。ところが……。それで、(結論)



## 長文読解練習 2

### 「平均という言葉の意味」

#### ■ ポイント

- (1) 自分の予想と比べながら読む
- (2) 文章と文章の関係をみる  
(順接、逆接の接続詞)
- (3) 文章の要点(筆者が言いたいこと)をつかむ  
(段落の構成・流れ)

#### ■ 本文新出語

名詞      だんとう   おんど   きしやう   ちやう   へいねん   か   こ   き   かん   さいこう   ち   きゆう  
             : 暖冬   温度   気象(庁)   平年   過去   機関   最高   地球  
             たい   き   ちゆう   に   さん   か   たん   そ   シーオーツー   のう   ど   おん   しつ   だい   ぶ   ぶん   せき   たん  
             大気(中)   二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)   濃度   温室   大部分   石炭  
             こく   れん   こく   さい   れん   ごう   はん   なが   き   こう   さく   もつ   なん   きょく   こ   おり  
             国連[= 国際連合]   半そで   長そで   気候   作物   南極   氷  
             さき   しやう   らい   ち   え   こん   せい   き  
             先[「将来」の意味]   知恵   今世紀

な形容詞      い   じやう   しん   こく  
             : 異常   深刻(→深刻さ)   ばか

い形容詞      か   し   こ  
             : 賢い

名詞／動詞Ⅲ      へい   きん   おん   だん   か   ちゆう   もく   はっ   せい  
             : 平均(する)   温暖化(する)   注目(する)   発生(する)  
             ど   り   じ   ぶ   じ   っ   かん  
             努力(する)   実感(する)

動詞      す   む   も   と  
             : 過ごす   (目を)向ける   燃やす   溶ける

#### [基本動詞の用法]

・(注目を)集める   (被害を)受ける   (影響が)出る   (知恵を)出す

副詞      : がらりと

その他      も   じ   ど   お   ど  
             : 文字通り   ～度



## 長文読解練習2

## &lt;本文を読む前に&gt;

(1) 「暖冬」「地球温暖化」がどんなものか、本文を読む前に、新出語を参考にしながら話してください。(分からないところはそのままでもいいです。)

1. 「暖冬」というのはどのくらい暖かいことか予想してください。
2. 「温暖化」というのはどのくらいの温度が上がることか予想してください。
3. 「温暖化」の原因について考えてください。
4. 「温暖化」の影響について考えてください。



(2) 文章は7つの段落に分かれています。それを確認してください。

<練習A> 本文を1回さっと読んで、次の作業をしてください。

(1) 7つの段落を大きく2つに分けるとしたら、どこで分けられますか。線を引いてください。そして、それぞれのグループに簡単なタイトルをつけてください。

<1>    <2>    <3>    <4>    <5>    <6>    <7>

\_\_\_\_\_ について    /    \_\_\_\_\_ について

(2) 筆者が一番言いたいことはどの段落にありますか。



## &lt;本文&gt;

天気予報で使われる言葉に「暖冬」という言葉がある。暖冬というのは文字通り暖かい冬という意味だが、どの程度暖かい時に暖冬と言われるかを知っている人はそう多くない。暖冬だと言われれば、冬なのに暖かい日が多い異常な季節なのだろうと思うだけだ。その異常さはどの程度の温度なのだろう。

気象庁によると、その冬の『平均気温』が平年(=過去30年間の平均)と比



## 長文読解練習2

べて0.5度以上高い場合に暖冬というそうだ。5度ではなくて、0.5度だ。冬を過ごせば、0度の日もあるし、6度の日もあるし、12度の日もある。しかし、『平均』で0.5度だけ高いとそれはもう異常なのだ。

目を国内から世界に向けてみよう。気象の専門機関の発表では、98年の世界全体の気温は異常に高くて、過去最高を記録したという。その異常さはどのくらいかという、『平均気温』が平年より0.82度高かっただけだ。

今、「地球温暖化」の問題が世界中の注目を集めている。大気中の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)濃度が高くなることによって、まるで地球全体が温室のようになるらしい。だから、その濃度が高くなればなるほど気温が上がることになる。その二酸化炭素の大部分は石油や石炭を燃やすことによって発生する。国連の専門チームの予測では、その発生に対して何もしなければこれからの100年間で気温は3.8度上がるということだ。できるだけ発生させないように努力した場合でも1.8度上がるらしい。もちろんこれも『平均気温』だ。

こんなニュースを聞いても、その深刻さを実感する人は少ないようだ。それはきっと温暖化という言葉とこの平均気温のせいだろう。暖かくなるのは寒くなるよりいいのではないとか、心配していたほど上がらなくてよかったと考えてしまうのかもしれない。しかし、半そでのシャツを着るか長そでのシャツを着るかどちらにするかという問題ではない。1度上がるだけで、気候ががらりと変わる。それによって作物が大きな被害を受ける。そうすると、私たちの食べ物にも影響が出る。南極の氷が溶けることによって海の下になってしまう場所も多く出て来る。

確かに100年も先のことを考えて今何かしようという気持ちになるのは難しいものだ。心配してばかりいてもしょうがない。それだけの時間があればきっとだれかがいい知恵を出して問題を解決してくれるだろうと考えたくなる。しかし、今何かしなければいけない。それが、『平均気温』で1.8度上がるということの意味だ。

「やっぱり人間はばかだった」となるのか、「やっぱり人間は賢かった」となるのか。今世紀の終わりまでには答えが出るだろう。



## 長文読解練習2

＜練習B＞もう一度読んで、 次の質問に答えてください。

- (1) 「暖冬」というのはどんな場合に使う言葉ですか。
- (2) 「温暖化」というのはどんなことですか。
- (3) 筆者はなぜ『平均気温』について具体的な数字を出して説明したのですか。
- (4) 筆者が一番読者に伝えたかったことは何ですか。
- (5) 「やっぱり人間はばかだった」と思う場合と「やっぱり人間は賢かった」と思う場合はそれぞれどんな結果になった時ですか。本文の単語も使って説明してください。
  1. 「やっぱり人間はばかだった」
  2. 「やっぱり人間は賢かった」

## ＜読解のスキル＞

・ 読む前にテーマについて予想しておいて、実際の文章を読みながら確認する。

・ 段落構成と流れをつかむ

1. ＜疑問の提示＞：「～だろう（か）」  
↓
2. ＜具体的な例／数字＞と＜それについての筆者の考え＞  
↓
3. ＜筆者の言いたいことをまとめる＞  
↓
4. ＜読者への疑問提示＞

・ 筆者の言いたい部分を正確につかむ

1. ・ ・ ・ ・ ・。しかし、～
2. 確かに・ ・ ・ ・ ・。しかし、～
3. “ ” や「 」 や『 』 で強調されて単語や句
4. 「～のだ」 で結論を示している部分



# 長文読解練習 3

## 「犬と人間」

### ■ ポイント

関係している内容を結び付ける

長文読解練習＜1＞の復習  
長文読解練習＜2＞の復習

### ■ 本文新出語

名詞	：施設 <small>しせつ</small> 専用 <small>せんよう</small> (お)墓 <small>はか</small> 一員 <small>いちいん</small> 飼い主 <small>かぬし</small> 日ごろ <small>ひ</small> パートナー <small>ま</small> 街 <small>まち</small>
	車いす <small>くるま</small>
な形容詞	：盛ん <small>さか</small> 不自由 <small>ふじゆう</small>
い形容詞	：とんでもない <small>たの</small> 頼もしい
名詞／動詞Ⅲ	：行動(する) <small>こうどう</small> 訓練(する) <small>くんれん</small> 外出(する) <small>がいしゅつ</small> 反応(する) <small>はんのう</small> 乗車(する) <small>じょうしゃ</small>
動詞	：扱う(→扱い) <small>あつか</small> しつける(→しつけ) 見かける <small>み</small> 頼りになる <small>たよ</small> 許す <small>ゆる</small> 揺れる <small>ゆ</small> ほえる <small>みちび</small> かみつく 導く <small>みど</small> とじこもる 認める

#### [基本動詞の用法]

・(扱いを／訓練を)受ける (行動を)とる (～人、動物が)ある

副詞 ；もしも 以前(は)いぜん、しっかりする

その他 ；もしものこと (こんな)ふう(な／に～) (～と)共にとも 個別にこべつ



## 長文読解練習3

## &lt;本文を読む前に&gt;

(1) 次のことについて考えてください。

1. ペットは飼い主と一緒に電車に乗ることができますか。
2. 一緒に乗ることができる犬はいますか。それはどんな犬ですか。



(2) 文章は6つの段落に分かれています。それを確認してください。

&lt;練習A&gt; 本文を1回さっと読んで、次の作業をしてください。

(1) 6つの段落を大きく2つのグループに分けるとしたらどこで分けますか。線を引いてください。そして、それぞれのグループに簡単なタイトルをつけてください。

<1>      <2>      <3>      <4>      <5>      <6>  
 \_\_\_\_\_ について / \_\_\_\_\_ について

(2) どんな犬が紹介されていますか。紹介されている段落の番号の下に名前を書いてください。

(3) 筆者が一番言いたいことが書いてある段落はどこですか。

## &lt;本文&gt;



日本もペット産業がずいぶんと大きくなってきた。ペットのためにいろいろなサービスや施設がある。たとえペット専用のお墓ができたとしても驚かなくなるくらい人間と同じような扱いを受けられるようになった。特に犬は家族の一員のように扱われることが多い。

ところが、飼い主がその犬をどんなに好きでも、電車や飛行機などにそのまま連れて乗ることはできない。レストランでも犬を連れたまま食事ができる場所はほんの一部だけだ。

これだけペット産業が盛んなのに、なぜなのだろうか。答えは簡単だ。犬は人間と違って、いつどんな行動をとるかわからないからだ。公園や道だったら、犬が怖い人は近づかなければいいだけだが、電車や飛行機やレストランでは周りのお客にもしものことがあったら大変だ。こんなふうに書くと、日ごろから犬のしつけを厳しくしている人から文句を言われそうだが、基本



## 長文読解練習3

的にはこの考え方は正しいと思う。以前は日本ほど安全な国はないと言われ 13  
たものだが、最近はとんでもない行動をとる人間が確かに増えてきている。 14  
だから、危ない人間と一緒に電車に乗るくらいなら犬と一緒にのほうがましだ 15  
と考える人もいるかもしれない。でも、そんな社会にはなってほしくない。 16  
犬よりもまず人間のほうがもっとしっかりしなければいけない。 17

しかし、反対にどんどん乗ってほしいと思う犬もある。ペットとしての犬 18  
と違って、この犬は法律で電車に乗れることになっている。いわゆる盲導犬<sup>もうどうけん</sup> 19  
と呼ばれる犬だ。その数も増えてきているので、実際に電車で見かけた人も 20  
いると思う。目が不自由な人にとってのいわば目となって共に行動してくれ 21  
る、頼りになるパートナーだ。なぜ彼らは電車に乗ることが許されるのかと 22  
いうと、それはペットの犬が乗れない理由とちょうど反対だ。たとえば電車が 23  
揺れたり、食べ物のおいがしたり、近くの人のおがぶつかっても、ほえたり 24  
騒いだりかみついたりしないように訓練を受けているのだ。盲導犬はひと 25  
りで行動するのではなく、目が不自由なご主人を守り、導きながら行動しな 26  
ければならないから、その訓練は相当厳しいものだという。 27

一方、盲導犬と同じ程度の訓練を受けているのに、まだ法律ではペットと 28  
同じ扱いを受けるために電車に乗ることができない犬がいる。いわゆる聴導<sup>ちょうどう</sup> 29  
犬<sup>けん</sup>と呼ばれる犬だ。盲導犬がご主人の目となってくれるのに対して、こちら 30  
は耳となって行動してくれる犬だ。盲導犬と比べてまだ一般には知られてい 31  
ないが、日本でも数は少しずつ増えている。電話が鳴ったり、お客さんが来 32  
たときにそれを知らせてくれる。外出したときには、後ろから近づいてくる 33  
車の音に反応してご主人を守ってくれる。盲導犬のような犬を連れているの 34  
に目が見えるということで、周りの人から誤解されることも多いという。し 35  
かし、最近になってやっと鉄道会社や航空会社が個別に試験をして、聴導犬 36  
の乗車を許可するようになってきた。当然のことだ。体が不自由な人が家の 37  
中にとじこもっていないで、普通の人と同じように街に出ることができる社 38  
会がいい。 39

また、車いすで生活しなければならない人の頼もしいパートナーとして介 40  
助犬<sup>じょけん</sup>と呼ばれる犬もいるが、こちらもまだ法律ではペット扱いだ。聴導犬や 41  
介助犬の働きが認められるにしたがって、きっと法律も変わっていくだろう。 42  
そのためには、このような犬たちに対する私たちの理解も必要だ。 43



## 長文読解練習3

＜練習問題B＞もう一度読んで、 次の質問に答えてください。

- (1) この文章で紹介されている犬についてそれぞれの共通点と違う点をまとめてください。
- (2) 第3段落の「もしものこと」というのはどんなことですか。それと関係があることが書かれているところはどこですか。
- (3) 第3段落の「そんな社会・・・」というのはどんな社会ですか。
- (4) 筆者の考えをまとめてください。
  1. ペットとしての犬について
  2. 体が不自由な人について
  3. その人のパートナーとしての犬について
- (5) この文章を読んでどう思いましたか。筆者の考え方についてどう思いますか。

注：2002年5月に「身体障害者補助犬法」が参議院で可決、成立。同年10月から施行されることになった。これで「盲導犬・聴導犬・介助犬」が補助犬として同等に扱われ、公共施設、公共交通機関だけでなく、不特定多数が利用する民間施設にも受け入れが義務づけられた。ただし、ホテルやレストランなどの民間施設の場合は周知期間を設け、2003年10月から義務づけられる。民間の職場やマンションへの受け入れについては努力規定がある。

## ＜読解のスキル＞

## ・段落構成

＜前置き＞



＜疑問提起＞と＜筆者の考え＞



＜具体的な例の紹介＞

「しかし」「一方」「また」



＜筆者の考えのまとめ＞

## ・関係する内容が離れて書かれていることもある。

例『それはペットの犬が乗れない理由とちょうど反対だ』



## 長文読解練習 4

### 「コンビニの前の風景」

#### ■ ポイント

エッセーを読む／楽しむ

#### ■ 本文新出語

名詞	ふうけい ：風景 おやつ オフィス	あいえん か 愛煙家	す がら 吸い殻	やくわり 役割	ペットボトル
	さか 逆さま(にする) ラベル	おや こ 親子	か てい 家庭		
い形容詞	あま ：(～に)甘い				
名詞／動詞Ⅲ	いっぷく ：一服(する)	かんさつ 観察(する)			
動詞	わ ：分かれるⅡ (中を)のぞくⅠ	はがすⅠ			
副詞	：ボンボン(と) ちゃんと ギュッ(と)				
その他	：どこも				

#### [基本動詞の用法]

- ・ (興味を)持つ

#### ＜本文を読む前に＞

- ・ タイトル『コンビニの前の風景』からどんなことを連想しますか。自由に話してください。

## 長文読解練習 4

＜練習A＞今回はこの練習はありません。話の展開に注意しながら読んでください。読んだあとで＜練習B＞の問いに答えてください。

## ＜本文＞



都会に住んでいると、コンビニほど有り難いものはないと思う。24時間開いていて、生活に必要なものがたいていそろっている。実は私にとってはもう一つ有り難いと思っていることがある。

私が勤めている会社のすぐ近くにもコンビニがある。午前と午後の休憩時には必ずコンビニに行く。行くといってもおやつとかジュースを買いに行くというわけではない。たばこを吸いに行くのだ。日本は喫煙に対して甘いと言われるが、最近はオフィスの中はどこも禁煙になったところが多いようだ。私の会社の向かいのオフィスではちゃんと建物の前にイスとテーブルと灰皿が用意されていて、社員はわざわざそこまで出て来て吸っている。まさかそこにお邪魔して吸うわけにはいけないので、私はコンビニの前に置いてある灰皿のところまで行って吸っているというわけである。愛煙家にとってはつらい世の中になったものだが、外で吸うからにはちゃんと吸い殻は灰皿に捨てなければいけないと思っている。コンビニはこんな者にとっても非常に役に立っているわけであるが、ある日コンビニのもう一つの大切な役割に改めて気がついた。

その日もいつものように午前中の休み時間にコンビニの前で一服していると、小学校2、3年くらいの男の子がペットボトルを一つ持ってやって来た。きっとコンビニの前にあるゴミ箱に自分のうちのごみを捨てに来たのだろうと思っていたら、案の定その前で止まった。ところが、なかなかそのペットボトルを捨てないのだ。右手に持ったペットボトルで頭をポンポンとたたきながら何かを読んでいるようだった。その様子がいかに子供らしいと思いながら観察していた。

そのコンビニのゴミ箱は燃えるゴミとカンやビン、そしてペットボトルの三つに分けてある場所が分かれている。男の子はどこに捨てたらいいのか迷っているのかと思ったら、そうではなかった。ペットボトルの捨て方の説明を読



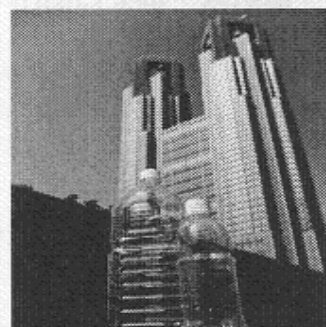
## 長文読解練習4

んでいたのだ。私は以前読んだことがあったので内容は知っていた。それで、  
その子がちゃんと説明どおりに捨てられるかどうか興味を持った。

彼はまずポンポンとたたいていたボトルのふたを取り、中をのぞいて、次に逆さまにして中身がないことを確認した。そして足の下に置いてギュッと踏んだ。ここまでは説明どおりだ。あとは捨てるだけなのだが、なぜか彼は止まってしまった。私はそれを見て、「それでいいんだよ」と言いそうになったがやめた。彼はボトルのふたをどうすればいいのかと考えていたのだ。ゴミ箱にある説明には、実はふたのことは書いてなかった。だから、彼は迷っていたというわけだ。私は二本目のたばこに火をつけた。

まさかそんなことで悩んでいるとは思わなかったので、びっくりした。よく見ると、そのボトルはきれいにラベルが取られていた。きつとうちでゴミの捨て方を教わっているに違いないと思った。彼はしばらく考えて、ボトルと一緒に同じところに捨てて帰った。よくあそこまでできるものだと感心して私もオフィスに戻った。

驚いたことに、午後の休憩時間に一服していると、また来たのである。来たといってもあの男の子ではない。あの男の子のお母さんである。もちろんお母さんかどうか聞いたわけではない。しかし、あれと全く同じサイズでラベルがきれいにはがされたボトルを三本持ってやって来たのである。だからといってあの子のお母さんとは限らないが、私はそうに違いないと思った。男の子との違いは、お母さんは私がたばこを一本吸い終わらないうちにさっと捨てて帰ったことだった。あの親子にとっては、コンビニはいわばリサイクルの入り口であったわけだ。私はあの親子の家庭がどんなものを想像しながらたばこの火を消した。そして、コンビニの前でたばこを吸っている自分はほかの人にどう思われているのか考えながらオフィスに戻った。







## 長文読解練習4

## &lt;読解のスキル&gt;

## ・エッセーの読み方、楽しみ方

展開の意外性、文章から状況や心理をイメージする

## &lt;話しの展開&gt;

1. ～と思ったら、・・・
2. 実は、・・・
3. ～というわけではなかった
4. ところが、しかし、まさか、

## &lt;情景描写&gt;

1. いかにも～らしい
2. ～ようだ
3. ～そうになった
4. 擬態語
5. 動作の展開
6. 間接的な描写とそのメッセージ

例「たばこを一本吸い終わらないうちに・・・」

## &lt;心理描写&gt;

1. ～わけにはいかない
2. ～にちがいないと思った
3. 動詞や形容詞

例「迷う」